

《茨城支部ニュース・レター》

平成 26 年 5 月 10 日(土)に、「第 1 回資格更新研修会」と「茨城支部総会」が行われました。

場 所：水戸市ボランティア会館（ミオス）  
演 題：「震災支援、私たちに何ができるか」  
講 師：徳田太郎＜（ファシリテーター）元つくば発達障害就労支援協議会会長  
日本ファシリテーション協会会員＞  
星茂行（葛飾市役所教育委員会事務局指導室）  
河村要和（茨城県立美浦特別支援学校）  
鈴木恵美子（NPO法人発達支援グループ風の子）  
安藤みゆき（茨城女子短期大学）

参加者：32名（臨床発達心理士）

◆研修内容：

- 1 支援活動報告（星，河村）
- 2 新規プロジェクト紹介（鈴木・安藤）
- 3 参加者の意見交換（ファシリテーション）

- ・徳田先生のファシリテーションが見事でした。
- ・グループの話し合いでは、意見交換がすぐに始まり、
- ・あっという間に時間が過ぎました。
- ・会員同士がとても近くなれた研修会となりました。

以下、内容を簡単に紹介いたします。

◆「支援活動報告」では以下のような経過報告がありました。

- ・震災の当日のエピソード
- ・茨城県内に住む会員の状況調査を行い茨城支部大会や全国大会で報告
- ・びえろプロジェクト（日本臨床発達心理士会の支援活動）の紹介
- ・埼玉支部の活動の経緯（埼玉と福島が協力することとなった）
- ・そこに茨城支部が協力することとなった経緯
- ・いわき市南台にある双葉町仮設住宅での支援活動について
- ・現地写真から見る支援活動の様子
- ・茨城自体もかなりの被害を受けていた現状報告

◆「新規プロジェクト紹介」では以下のような提案がありました。

- ・「茨城県内の母子担当保健師を対象とした震災に関する母子への実態調査」の調査票の提案と、なぜその調査が必要であるかということに対する説明（震災直後に生まれた子どもが3歳児健診の対象となる今年、影響の検討が必要ではないかと考えられ、また、影響が見つかった場合、そのケアをしていくことの重要性について）
- ・「参加者の意見交換」は、徳田先生のファシリテーションにより行われました。

「震災」をテーマに、2人組、3人組、4人組、6人組、とさまざまな人とさまざまなグルーピングが行われる中、意見交換が行われ、ほぼ全員と話をする形になりました。最初は緊張していた参加者も、後半はすっかり打ち解けて、話は尽きないという状況が生まれました。

前半は「震災支援は必要か」というところから、後半は「臨床発達心理士として何ができるか」というテーマで、さまざまな意見交換ができたものと思います。

前半、後半それぞれ4～6名で震災について話合った後、1～2名がその場に残って「ホスト」となり、3～4名が「旅人」となって他のグループへ移ります。「ホスト」は他のグループから来た人に自分のグループで話し合ったことを語り、「旅人」は他のグループへ行って聞いてきたことを自分のグループに戻って伝えます。

いろいろなグループの話し合いが、あっという間にすべてのグループに「共有」される、画期的な方法に驚くばかりでした。

◆「茨城支部総会」は、会員数69名中、出席者30名、委任状17名で、  
下記の議事について協議を行いました。

- ① 2013年度 活動報告
- ② 2014年度 活動計画案
- ③ 2013年度 会計報告・監査報告
- ④ 2014年度 予算案
- ⑤ 支部規約改正について
- ⑥ 役員の改選について（支部長の指名の報告）

①～⑤の議事については、賛成多数で異議なく承認されました。

改正された規約は会員メイリングリストで、それ以外の総会資料につきましては、後日HPでお知らせいたします。

---

次回、第2回研修会（公開講座）は、10月19日（日）に、つくばサイエンスインフォメーションセンターにて、

大六一志氏（講師）による、WISC-4 の講座「WISC-IV検査結果の解釈と支援」を行う予定です。